
とある分岐点

アキ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

とある分岐点

【Nコード】

N3857J

【作者名】

アキ

【あらすじ】

ある所に女がいた

女はある男に興味をもっていた

しかしその男には想い人がいる

女はその想いを隠していた

そしてある時男に想い人の相談を持ちかけられる

女は自分の想いを捨て男と想い人を結ばせようとする

結果男と想い人は結ばれる

そして・・・

あるところに一人の女がいた。

体格は小柄でどこにでも居そうな女だった。

女には異性として興味を持っている男がいた。

しかしその男にはすでに他の想い人がいた。

そのため、その男の想いは自分の内に秘めるようにした。

そんなときだった。

男がその想い人に対しての相談を女に持ちかけてきたのである。

女は迷った、このまま男への想いを捨ててよいのか。

悩んだ末、女は想いを捨て男の相談に乗ることにした。

結果、男と想い人は結ばれることになった。

そして時が流れると再び女は男への想いが戻りつつあった……

女は男への想いを諦めることが出来なかったのである。

そしてあらゆる方法で男と想い人を破局させようと考え、行動

したのである。

しかし、成果は出なかった。

それどころか、皮肉にも男と想い人の距離はより親密になっ
ていったのだった。

ここになって女は思ったのだ。

「ああ、もっと早く私の想いを伝えていれば……」と

しかし時すでに遅し、もう取り返しはつかなかったのだ。

そしてその想いを残したまま後悔しつつ過ごしていった。

そして、後に思うのだった。

あの時私が想いを告げたら今度は逆に想い人の女が私と同じよう
な事になったのではないかと。

だがその答えは誰にも分からないだろう……

人間は同じ分岐点には戻ることが出来ないのだから……

(後書き)

最後まで読んでいただきありがとうございます。
小説とは言えないほど下手なものですが、感想又はアドバイスなど
があればよろしく願います。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3857j/>

とある分岐点

2011年1月26日23時39分発行